

社会福祉法人 福田会

週次報告書

2023年11月14日 / Vol. 057



ご支援総額

2023年11月9日までの寄付総額

126,675,310 円

寄付金使用総額

3445165.09 zł (約1億335万円)

10/30(月)～11/12(日)の期間中の寄附金使用額

43917.71 zł (約132万1千円)

10月30日(月)～11月12日(日)の支援活動

食材支援 (毎週金曜日) ※祝日等で変動あり

一人あたり50złの予算を設け、1週間分の昼食用食材の購入を支援。

11月3日(金) 24家族が参加 合計 3143.99 zł (約11万円)

11月10日(金) 23家族が参加 合計 2933.63 zł (約10万2千円)



シェルターへ空調設備の寄付

これまで食事配達等の支援を実施してきた Duchacka シェルターへ空調設備を6台寄付し、設置工事を実施。

同シェルターでは現在約40名が避難生活を送っており、建物内の壁には黒カビが発生するなど、厳しい居住環境となっている。

空調設備は冷・暖房に対応しているため、1年を通して利用することが出来る。



今後の支援活動

10月上旬に訪問したZustricz財団（ウクライナ人のための人道支援団体）と協力し、自立を目指すウクライナ避難民のための、無料のポーランド語コースを実施予定。

現地の動向

2023年11月2日、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の発表した調査結果によると、ポーランドに滞在しているウクライナ避難民の多くは、未だに様々な問題を抱えている。

十分な収入源がないこと、就業機会に問題があることが、懸念点として最も多く挙げられ（32%）、次いで医療へのアクセスが限られていること（27%）、住居へのアクセスに問題があること（23%）が挙げられた。

就業問題について、現役世代では大多数（61%）が何らかの仕事があり、さらに11%が求職中で、すぐにでも仕事を始められる状態だと答えた。残りの28%は、子どもの世話など、さまざまな要因や制約のために、雇用の機会を得られなかった。

医療へのアクセスについては、UNHCRが調査した世帯では、回答世帯の29%が過去30日間に医療を必要としたと答え、このグループの回答者の10%は、医療を受けることができなかった。適切な医療を受けられない理由として最も多く報告されたのは、予約が取れないこと、言葉の壁、診療所の受診料を支払う手段がないことであった。

宿泊施設へのアクセスについては、回答者の59%が独立したアパートに住み、20%が他の人と共同生活、20%がホステルや集合住宅に住んでいると答えた。また、回答者の26%が住居環境に問題があると報告した。最も一般的な理由は、スペースが足りない、シャワーとトイレが別々でない、プライバシーが限られているなどであった。中には、滞在先の住居を離れる必要に迫られている回答世帯もいる。

